
鉾山研究会

ニューズレター No. 9 1

2013年3月27日

- | | | |
|---|---------------------------|-------|
| 1 | 研究大会・総会のお知らせ | |
| 2 | 鉾山研究会に参加して | 小西信義 |
| 3 | 海外鉾山文献読書会のご案内 | 丸山もとこ |
| 4 | 事務局から
寄贈資料紹介
その他の寄贈 | 川俣修壽 |

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

1 研究大会・総会のお知らせ

日時 4月20日（土）、1－5時

場所 法政大学市ヶ谷キャンパス

80年館7階丸会議室

1部 研究大会（1－4時）

研究報告

日本列島における金属文化発生の一考察

中山喬央

最近話題になっている隕石について

藤田貢崇

オーストラリアにおける鉱業技師、鉱山支配人の人的資源形成

市原 博

1910年代から1930年代における北海道釧路炭田の労働市場－友子資料を用いた労働分析

土井徹平

2部 総会（4－5時）

2012年度活動報告

川俣修壽

1. 12年の研究大会と総会は4月21日、法政大学富士見キャンパス「ボアソナードタワー19階」で開かれ、研究報告は、長島節五会員「『たたら製鉄その操業と環境について』映像を使って」、小野崎敏会員「稼働中の産業遺産登録を行う場合の日本政府における取扱いについて(釜石・足尾等)」、藤田貢崇会員が自身の近著「宇宙論」朝日新聞出版刊の紹介をした。

総会は、11年度の活動報告、12年度の活動計画、会計報告、会費を6000円に引き上げる予算案、人事案件とも可決了承された。

2. 研究報告

A・研究例会

7月7日法政大学富士見キャンパス「ボアソナードタワー19階」で開かれ、小西信義会員「現代における『山神祭』の役割－夕張神社例大祭のフィールドワーク」、藤田嗣宗会員「宇宙論その2」

11月24日法政大学富士見キャンパス80年館7階で、村串仁三郎会員「会津諸鉱山における友子制度」、村田弘一会員「会津巡検の報告」、川俣修壽会員「閉山後の地域開発の失敗例－阿仁鉱山森吉山スキー場の事例報告」

B・「鉱山の映像を見る会」の活動

第33回は2012年6月30日（土）13:30～17:00、國學院大學渋谷

キャンパスで開かれ、テーマは「鉄」で、上映内容は、「ローカル産業ツアー：鉄のマチ・室蘭の知られざる素顔」NHK 総合テレビ，2011/12/16 放送，5 分、「にほん風景遺産：北九州 2 泊 3 日 タイムマシンの旅」BS 朝日，2012/01/24 放送より、新日本製鐵八幡製鐵所関連映像約 25 分、吉野馨治製作・伊勢長之助構成編集「新しい製鉄所」岩波映画，大映，1959 年，41 分、「極める日本の美と心 #108：邪馬台国の時代～吉野ヶ里と弥生文化～」1990 年，約 25 分、「奇跡の地球物語～近未来創造サイエンス～：刀鍛冶～鉄を極める日本伝統の技～」テレビ朝日，2011/12/11 放送，約 21 分、長島節五「たたら日本古来の製鉄：「先大津阿川村山砂鉄洗取図」絵巻のビデオ化」2012 年，17 分、「靖国踏鞴：陸軍大将鈴木孝雄閣下視察」，昭和 17 年，12 分、日刀保たたら「たたら吹き：引き継がれる千年の技」15 分。

第 34 回は 2012 年 12 月 15 日（土）13:30～17:00、國學院大學渋谷キャンパスで、テーマは「シェール革命」と「会津」。上映内容は、「WBS」テレビ東京，2012/3/1 放送より、シェールガス関連映像約 6 分、「ワールド Wave モーニング」NHKBBS1，2012/7/18 放送より、シェールガス関連映像約 7 分、「夢の扉＋“幻の石油”シェールオイルを探せ！」TBS，2012/10/21 放送，約 24 分、「クローズアップ現代 “シェール革命”の衝撃」NHK 総合，2012/10/25 放送，約 25 分、「磐梯山噴火100年－噴火を見た村」福島中央テレビ，1988/06 放送，約 28 分、「大峠鉱山と田住豊四郎」約 12 分、「與内畑鉱山と加納鉱山」1993 年頃，約 7 分、「消えた日中線」1984 年頃，約 30 分。以上会津の映像は佐藤一男さん、最後に小野崎敏さんから、足尾の最新映像をそれぞれ提供をうけた。

C・「海外鉱山文献読書会」は 2012 年 4 月から 2013 年 2 月までに 10 回行い、2007 年 6 月から読みはじめた Clark C. Spence 著『Mining Engineers and the American West: The Lace-Boot Brigade, 1849-1933』（1970 年）をついに読了した。本会は逐語訳の勉強会で、一冊のテキストをゆっくり読み進めるため、今回のテキストは読了までに 5 年 8 ヶ月、全 60 回（各回約 2 時間）を要した。

D・現地見学会は、会員 12 人が参加して 9 月 1 日－2 日「会津・喜多方方面」を佐藤一男会員の案内で行った。風間鉱業・石が森鉱山、沼尻鉱山の鉄道資料館、加納鉱山、檜原金銀鉱山のほか、宝

坂鉦山(オパール、ちなみに国内で唯一の宝石鉦山)をオーナーのご厚意で見学させて貰ったうえ、標本を頂いた。佐藤会員の熱意で会津地域を縦横無尽に移動し見学したが、会津の鉦山遺跡は非常に多くほんの一部を目にしたに過ぎない。参考資料として「会津藩」関係文書を頂き、NHK「八重の桜」の参考となった。

佐藤会員は11月1日福島県から、社会教育功労賞を授与された。健康に留意しつつ今後の一層の活躍を期待します。

E・出版活動は、「鉦山研究」90号、「鉦山研究会ニューズレター」no89、90、91号を発行した。

F・その他の活動では、8月1日から9月30日の期間、足尾歴史館で元会員の「橋本康夫写真展」(主に70年代の足尾)が開催された。

2013年度活動方針

村串仁三郎

本年度も昨年並みの活動を行いたい。

- ① 定例研究会を総会の研究大会を含め、3、4回の開催。
- ② 昨年並みにニューズレター、3、4回の発行。
- ③ 好評の「鉦山の映像を観る会」も、3、4回の開催。
- ④ 「海外鉦山文献読書会」の月例ペースでの開催。
- ⑤ 年1回の会誌『鉦山研究』の発行。
- ⑥ シンポジウム「鉦山近代化の光と影」開催の提案

昨年は「現地見学会」を会津鉦山跡巡検として久しぶりに実施した。これまで会誌『鉦山研究』では、時々話題になる問題について特集を組んで、集中的に論じてきたが、どちらかと言えば、それは、事務局・編集部の上からの企画であった。

今回は、研究会活性化の意図もあって、大きな方向性として、「鉦山近代化の光と影」という課題を設定し、会員あるいは非会員を含め、報告者を広く募集し、9月か10月頃に東京でシンポジウムを開催してはどうか、と問題を提起してみたい。

当初、当研究会の活性化を期待し、『鉦山研究』90号の発行記念と田中正造翁没100周年を記念して、報告者を選定してシンポジウムを構想したが、事務局内部で意見がまとまらず、さきの「鉦山近代化の光と影」というシンポジュ

ームの開催如何を会員に呼びかけ、まずは、会員の方々に呼びかけ、意見を拝聴し、参加を募っていくこととした。

多数の応募があれば、丸一日かけてシンポジウム形式の研究大会を開催してもよく、報告が少数であれば、通常の例会形式にしてもよい。出来れば報告は、『鉾山研究』に掲載したい。

総会時に、この提案を皆さん方で議論していただきたい。あるいは、総会に出席できない会員からも、提案についてのご意見を、参加希望の申し出をお願いしておきたい。

2012年度会計報告（仮り）

久保敦子（会計係）

収入

繰越金	1,600
会費	347,000
投稿料	59,000
会誌買取他	26,000
借入	100,000
利子	2
計	433,602

支出

印刷費（会誌など）	244,650
郵送費	29,583
事務費	5,315
活動費（補助他	12,000
返済	100,000
繰越	7,054
投稿料など未納	35,000
計	433,602

2013年度予算案（仮り）

収入

繰越金	7,054
会費	347,000
投稿料	60,000

会誌買取他	20,000
未納投稿料など回収	35,000
計	433,602
支出	
印刷費(会誌など)	250,000
郵送費	30,000
事務費	6,000
活動費(補助他)	12,000
未納金納入	35,000
繰越	100,602
計	433,602

(正式な報告は、総会にて提出します。)

2 鉾山研究会に参加して

小西信義

＊昨年7月7日に行なわれた研究会で北海道からわざわざ上京して報告していただいた小西信義氏から寄せられた研究会の感想文を掲載します。実は、前号に掲載すべきものを手違いで本号に掲載することになりました(編集子)。

このたびの鉾山研究会において、「現代における「山神祭」の役割～夕張神社春季例大祭のフィールドワーク～」小西信義・北海道大学大学院文学研究科(共同研究者, 高泉幸太郎・北海道大学大学院文学研究科)と題して、2011年・2012年に行われた北海道夕張市での春祭りの様子を報告させていただきました。現在の夕張では、かつての「山神祭」を系譜とする春祭りが行われております。炭鉱関係者や文献資料による記憶や記録のようなヤマの発展を反映した華やかさは失われたが、「山神祭」は現代の環境に沿って役割を担っていることが参与観察を通じてわかりました。

現在の春祭りは、祭りの成功を祈願する宵宮祭, 神輿渡御をする本祭, 祭りの成功を感謝する後日祭が, 3日間のうちに行われます。この祭式の流れは, かつての山神祭も同様でした。しかし, 本祭において大きな変化が見られました。

本祭では, 以前「炭鉱マン」しか担ぐことのできない神輿は,

現在、トラックに載せられ、一日かけて夕張各地を渡御します。このトラック神輿は、昭和 40 年代の清水沢地区への神輿のトラック輸送から見られ、それはあくまでも北炭鉱区の拡大による渡御範囲の拡がりに対応したものだと思います。現在は、担ぎ手の減少によりどの局面においてもトラック渡御が行われるようになりました。

一方、各町内会では樽神輿（子供神輿）が町内を渡御したりする中、供物を載せた神棚がトラック神輿の渡御を待ち構えます。これらは、それぞれの町内会で規模の大小が見られ、町内会の祭りの担い手の状況を反映したものとなっております。

このような「山神祭」の変化を整理していくことにより、炭鉱社会における安全祈願・慰安行事としての山神祭は、各町内会の伝統的行事を担保する役割を現在は担っていると考えられます。ヤマの繁栄を全身で感じた人びとは、当時のヤマの生活を思い出し、この懐かしさを感じる機会がなくなることを「寂しい」と思いながら、「できる範囲」で祭りへの準備をし、町内の活気をもたらすトラック神輿を迎えているということを報告させていただきました。

今後、参加者からのご指摘の通り、炭鉱会社の主催で行われていた山神祭の経済的活動の側面から見た意義の解明、東日本・西日本における山神祭の記述の参照は、山神祭というものを何であったのかということを描き出すために取り組んでいく必要を改めて感じております。

3 海外鉱山文献読書会のご案内

丸山もとこ

4 月から新テキストです。近年、国際会議に出席したり、海外の鉱山を見学する機会が増えています。そこで、英語で著された鉱山文献を読み解く勉強会を月一回のペースで行っています。文献を通して海外の鉱山史と鉱山事情を学ぶほか、英語の専門用語に慣れることを目的としています。この勉強は海外で活動するうえで欠かせません。英語が苦手という方こそ、奮ってご参加ください。

【テキスト】Gold. ロンドン自然史博物館刊行, 1999 年.

【次回】2013 年 4 月上旬で調整中（決まり次第ウェブサイトを更新します）

【会場】GIO オーガニックカフェ（港区港南 1-9-36 アレア品川 2F）

【会費】なし、ただしテキストは自分で用意してください

【ウェブサイト】<http://www.jmrs.sakura.ne.jp/reading/>

【連絡先】jmrs.dokushokai@gmail.com

【注意事項】参加希望者は必ず事前にご連絡ください

日程は直前に変更されることがあります。ウェブサイトでご確認ください。

4 事務局からのお知らせ

① 伊豆巡検について村田淳氏よりメール

会員の皆様

2012 年度の伊豆巡検を延期します。母が脳梗塞を再発し、わたし自身の自由がききません。下見が不十分な上にわたし自身が参加できない模様です。手伝ってくれる人もいませので来年に延期します。場所は松崎周辺の鉾山の予定です。

準備ができ次第、秋頃にお知らせいたします。

② 寄贈資料の紹介

川俣修壽

「松田解子の会」会報。

No15 号 「東電の思想差別問題と松田解子さん」（元東電思想差別撤廃闘争原告団長鈴木章治）が「支援する会」の代表委員依頼の頃から 3.11 以後の東電の問題などを報告している。

No16 号 「金子文洋と松田解子」＝「おりん口伝」第 1 部の金子の批評と新発見された金子＝松田の書簡 10 通が解題付き（江崎淳）で紹介されている。

No17 号 「花岡事件と松田解子さん」（花岡の地・日中不再戦友好碑を守る会事務局長富樫康雄）の講演（年表付き）を収録している。

村上安正氏から同氏著『足尾に生きる』（副題「私の人生 80 年」）（随想社、3000 円税別、2012 年 10 月）が寄贈。